



With the trees of the Japanese forest



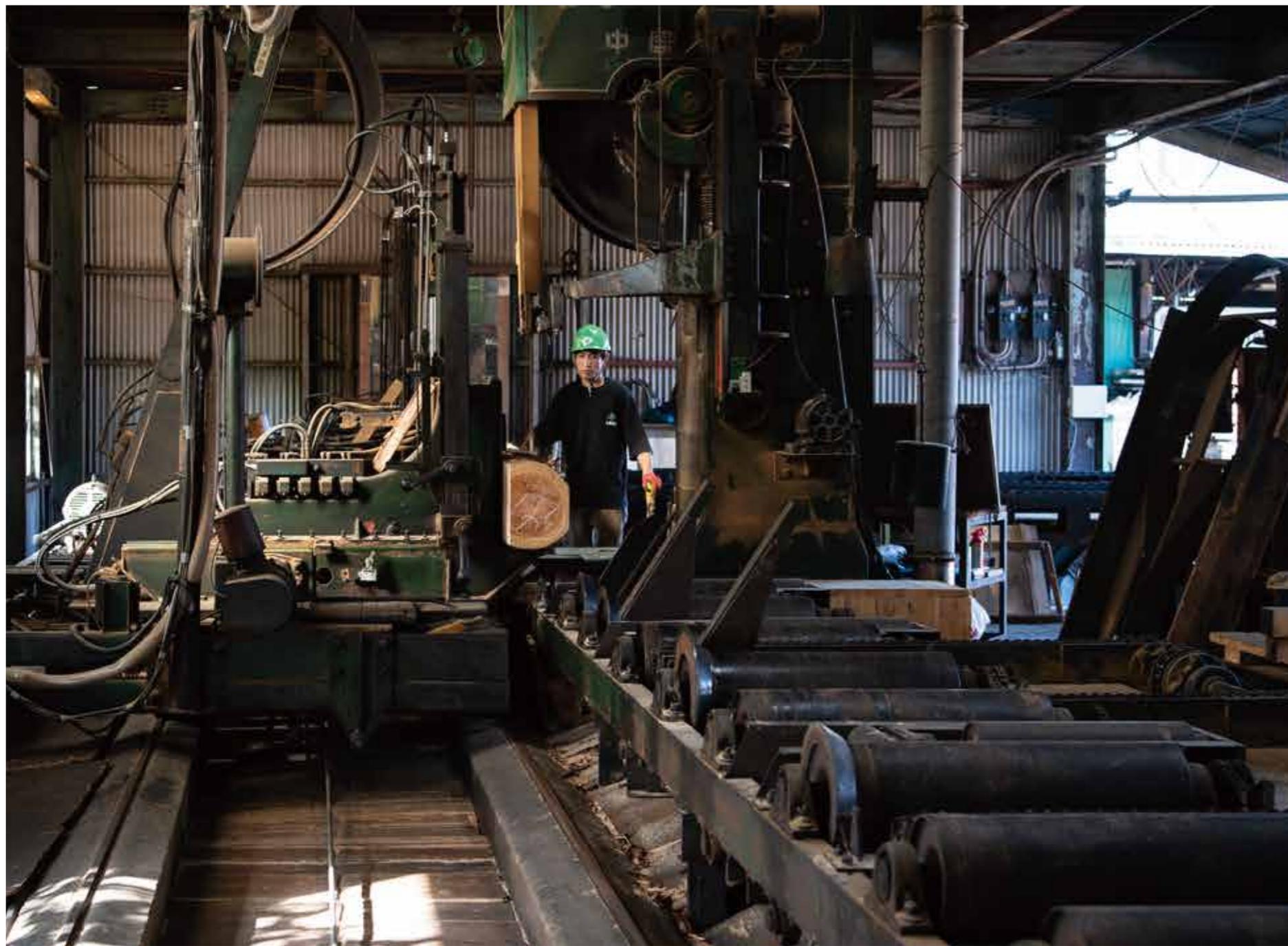
日本の森と木に寄り添う
循環型社会への挑戦



一般社団法人 大川スタンドバイツリー

〒831-0042 福岡県大川市九網 357-1

mail : okawastandbytree@gmail.com



大川スタンドパイプツリーの立ち上げまでに考えてきたこと

私たちは、いつまで 家具を作り続けられるだろう？

私たちは山がない森林のない大川で生まれ育ち、他の地域から木材を運び、長年木に関する加工製造事業に取り組むことで大川市は国内有数の家具産地となりました。しかし、バブル崩壊から今日まで大川の家具産業は衰退の一途を辿り、近年の社会情勢下において更なる衰退も危惧されています。私たちは国産木材の活用や早生広葉樹の可能性を引き出すため様々な取り組みを行ってきましたが、もっと森林に足を踏み入れて、森や木に寄り添って活動しなければこれまでの伝統や技術、歴史までもが衰退し消滅してしまうことを危惧しています。

なぜ国産材を 使わなければならないのか

日本の森林は、昔から木材需要の波によって伐採と植林を繰り返してきました。第二次世界大戦後の復興により木材需要が急増し大量伐採された後に植林されましたが、その後、輸入木材の自由化や木造住宅の着工数の減少など社会全体の変化に伴い、木材需要が大幅に減少。今、私たちが森で見る木々の多くは、戦後数十年に渡り有効活用されず放置された杉やヒノキなどの針葉樹です。

木材需要が減少し、人の手が加えられず放置された森林は、老朽化し山全体が木の根を張らず土砂災害などにも繋がります。歴史的にみても大量伐採される度に山地災害が発生してきました。

日本の森林が健全な状態を保つには、適材適所に木を植え、育て、正しく伐採し、継続的に活用することで、持続可能な森林資源の維持と循環させることが必要です。



これまで取り組んできた 国産材活用

私たちは協同組合福岡・大川家具工業会の地域材開発部会の一員として、2010年から積極的に国産材を活用する活動を行ってきました。

特に地元福岡県の木材を活用し、家具や木製品の開発、販売に取り組んでいます。

早生広葉樹センダンの植樹活動及び高級家具や木製品の用材としての活用を広報し普及させることを通して、植樹から木製品製造までの資源循環型社会の創出と家具や木製品の付加価値を創造することに注力しています。



輸入材の価格高騰・品不足 国産材利用の課題

2010年頃から輸入材の価格高騰や品不足により販売不振の懸念が大きくなったことと、地球環境配慮の取り組みをきっかけとして、国産材を活用した市場開拓にチャレンジしてきました。当初は杉やヒノキなどの針葉樹を中心に商品開発・展示・販売を何年も継続して行いましたが、針葉樹の強度不足や節が多く入り、デザイン性を損なうことで、当時は一般消費者には販売が難しく実績のないまま5～6年が経過しました。

大川での国産材利用はごくわずか

大川が地域の森の木を積極的に活用し始めて約16年。センダンの植樹や国産材の利用を積極的に行ってきました。しかし、国産材の利用は大川での全体の数パーセント程度に留まっています。その背景には、高騰しているにも関わらず安定した品質で入手できる輸入材の利用が挙げられます。逆に、国産材はまだ品質も価格も安定していないのが現状です。



早生広葉樹センダンの育成の課題

私たちは協同組合福岡・大川家具工業会の地域材開発部会の取り組みの一環として、これまで約5年間で3,000本以上の早生広葉樹センダン植樹活動行ってきました。しかし、害獣被害により鹿に食べられてしまうケースが多く見受けられたり、害虫被害、その他の要因によって成木になるまでの育成方法が確立していないのが現状です。山や森林には私たちの計り知れない課題や問題が山積みしています。このような状況を受けて私たちは植樹活動だけではなく、もっと森や木に寄り添う活動が必要だと考えるようになりました。



大川スタンドバイツリーの活動目標

もっと森や木に寄り添い、 共生していく未来を考える

家具、木製品や建材などで利用する木材は、川上といわれる林業家から様々な業者を介して川中～川下の最終消費者へ届けられます。2018年からスタートした早生広葉樹センダン植樹はそれら川上から川下までのすべての方々に参画して成り立っている活動でもあります。

この植樹活動をより未来に繋げるためにも、もっと森や木に寄り添いセンダンの育成に関わっていきます。また、国産材を広く普及させる活動を通じて、植樹（植える）から家具製造や販売（使う）まで、持続可能な森林資源の維持と循環、地球環境の負荷低減を目指します。

国産材の活用を広める

- ・国産材を活用するための講演会、広報活動
- ・地域の森を知ってもらうためのイベント

国産材を使い循環させる

- ・センダンの植樹活動と育成
- ・国産材を積極的に活用するための家具、木製品の企画開発

国産材を調査、研究する

- ・森林研究関係者、林業関係者、自治体との連携による調査、研究

国産材の安全性を高める

- ・国産材活用事業者の資格認定